

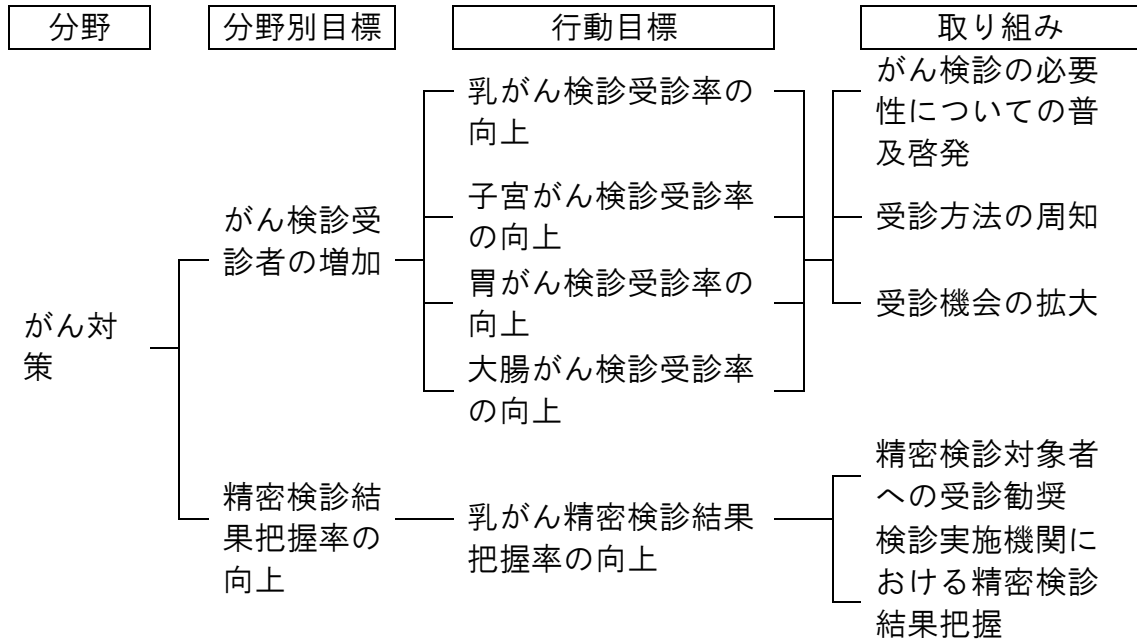
8 がん対策

がんは、昭和56年より日本人の死因の第1位を占めています。部位別にみると、胃がんと子宮がんが減少傾向であるのに対して、肺がん、大腸がん、乳がんが増加傾向にあります。

がんの危険因子としては、発がん性のある化学物質や放射線、ウイルス感染のほか、食塩や動物性脂肪の過剰摂取などの食生活、喫煙などの生活習慣も一因にあげられます。増加傾向にあるがんについては、これらの生活習慣の改善による予防の取り組みが重要です。これらの取り組みについては、分野「栄養・食生活の改善」及び「たばこ」等において、一次予防の観点でまとめています。

ここでは、がん検診の受診率向上や精度管理の強化を中心に、がんの早期発見など二次予防の充実を目指します。

〔体系図〕



〔分野別目標1〕 がん検診受診者数の増加（重点）

[ポイント]

がん予防の取り組みの最終的な目標は、がんによる死亡率の減少です。がんは、症状が現れたときには進行していることが多いため、症状が現れる前に早期に発見して治療することが重要です。

近年、がんの診断・治療技術は進歩しているため、今後は早期発見・早期治療のために、がん検診を受診する人がさらに増加することを目指します。

行動目標① 乳がん検診受診率の向上

6.0%（区） → 14%

行動目標② 子宮がん検診受診率の向上

10.5%（区） → 16%

行動目標③ 胃がん検診受診率の向上

12.8%（区） → 18%

行動目標④ 大腸がん検診受診率の向上

41.0%（区） → 50%

* 受診率の計算に用いる各がん検診の対象者数は、東京都が算定した以下の対象人口率を用いて算出した（行動目標の左側の数値は平成18年度の受診率）。

対象人口率（特別区）：平成18年度

乳がん検診 : 78.6%

子宮がん検診 : 71.4%

胃がん検診 : 63.3%

大腸がん検診 : 71.8%

取り組み① がん検診の必要性についての普及・啓発

保健サービスセンターの健康教育や乳幼児健診の機会を捉え、がん検診の必要性について普及啓発に努めます。乳がんについてはピンクリボン運動等の機会も活用し、検診受診や自己触診の普及啓発を行います。

また、地域だけでなく職域においても、がん検診の必要性についての認識が深まるよう、職域との連携を密にして啓発に取り組みます。

(保健予防課・保健サービスセンター)

取り組み② がん検診受診方法の周知

対象者への個別通知を行う等、受診機会の拡大に合わせ周知方法の充実を図ります。

(保健予防課)

取り組み③ がん検診の受診機会の拡大

対象者ががん検診を受診しやすいように、実施期間の延長や委託医療関の確保に努めます。

(保健予防課)

また、職域におけるがん検診の実施を進めます。

(職域)

〔分野別目標2〕 精密検診結果把握率の向上（重点）

[ポイント]

がん検診では要精密とされた後、早期に精密検査を受け、正確な診断を受けることが重要です。現状は子宮がん、胃がん、大腸がんでは、精密検診結果把握率がほぼ100%であるのに対して、乳がん検診では、約10%と精密検査の結果の把握が十分ではありません。そのため、特に乳がん検診の精密検診結果を把握し、必要な者に対して早期の医療機関受診を勧奨するなどのフォローアップ体制を強化し検診精度を向上するための資料として活用を図ります。

行動目標① 乳がん精密検診結果把握率の向上

9.6% → 30%

取り組み① 精密検診対象者への受診勧奨

精密検診対象者に紹介状を発行し、早期の受診を勧奨する。

(検診実施機関)

取り組み② 検診実施機関における精密検診結果の把握

検診実施機関に対して精密検診結果把握についても依頼し、確実に受診結果を把握できるような体制を作る。

(保健予防課)